

[JARUS 設立 40 周年記念事業]

令和 5 年度 田園自然再生活動の集い 開催要領

- 日 時：令和 5 年 12 月 13 日（水）13：00～17：00
- 場 所：東京大学 弥生講堂一条ホール（WEB 配信併用）
- 後 援：農林水産省、環境省、全国農村振興技術連盟、（公社）農業農村工学会、
農村計画学会、棚田学会、（一財）日本グラウンドワーク協会
- 参加対象：会員、土地改良区、地域活動組織、NPO、教育関係者、他一般
- 定 員：会場（100 名）、WEB（300 名）
- テーマ案：生物多様性と田園自然再生活動
ー生きものと共にある田園自然の暮らしと営みの継承ー
- 趣 旨：

この地球上では様々な生きものが、異なる環境で生きる場所を見つけ、互いの違いを活かしながら、つながりを持ち、バランスを保っています。人間や人間の活動もこのバランスの一部であり、私たちの身近な環境にもこうした生物の多様性が存在し、田園自然ではより多様な生きものと地域の暮らしや営みとの共生関係を築いてきました。

近年、我が国では本格的な少子高齢化・人口減少社会を迎え、農林業者の減少等により、田園自然を管理する担い手が不足し、自然環境からもたらされる資源が十分に活用されないことが、国内の生物多様性の損失の要因の一つとなっていると指摘されています。

人口減少などの課題に直面している状況は、自然資本を守る社会へと転換していく好機であり、世界に先駆けて高齢化・人口減少社会を迎えた我が国では、持続可能で自然と共生する社会を模索し、様々な取組を蓄積していくことも重要となります。

今年、新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」に対応するための第六次戦略となる「生物多様性国家戦略 2023-2030」が閣議決定され、2030 年の自然再興の実現を目指した取組が各地で推進されます。

そこで、平成 15 年度の「田園自然再生活動コンクール」の第 1 回開催から 20 年目の節目を迎えた「集い」の場において、地域が一体となって取り組んでいる自然環境や多様な生きものと共生する農村づくり「田園自然再生活動」の今、そしてこれからの展開について考えます。

なお、本イベントは（一社）地域環境資源センター（JARUS）設立 40 周年記念事業の一環として開催します。

● シンポジウム「令和5年度田園自然再生活動の集い」

〈プログラム（案）〉

- 1 主催者挨拶 林田直樹 （一社）地域環境資源センター理事長
- 2 来賓挨拶 ・農林水産省 農村振興局 整備部
・環境省 自然環境局 自然環境計画課
- 3 基調講演 ^{なかむらけいこ}中村桂子 JT生命誌研究館 名誉館長、田園自然再生活動協議会 会長
「私たち生きものの中の私 ―田園自然の暮らしこそ未来―」（仮題）
- 4 田園自然再生活動団体フォローアップ結果の報告（現地視察の報告）
- 5 パネルディスカッション
・活動報告 3団体代表
・意見交換

コーディネーター：^{しょうばやしみきたろう} 荘 林 幹太郎（総合地球環境学研究所 特任教授）

コメンテーター：中村桂子、林田直樹

パネリスト：

・^{ありもと さとる}有本 智 ^{びおとーぶもうこ}NPO法人自然回復を試みる会ビオトープ孟子（和歌山県海南市）

・^{かわばたこうえもん}川端小右衛門 水辺と生き物を守る農家と市民の会（福井県越前市）

・^{うえの かずみ}上野 和美 //

・小林 弘子 ^{くりみ でざいけちやう}栗見出在家 町魚のゆりかご水田協議会（滋賀県東近江市）

6 閉会

● 問合せ窓口：

（一社）地域環境資源センター 田園自然再生活動事務局

住 所：〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館6階

電話番号：03-5425-2461 / FAX 番号：03-3432-0743

メールアドレス：denen-saisei@jarus.or.jp

URL：https://www.jarus.or.jp/